

## アジア先史文化特論

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 家族社会学特論 I

担当教員 澤田 佳世

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習の目的は、(1)質的調査法のテキストおよび質的調査を用いた家族とジェンダーに関する先行研究を精読し、(2)その成果から問題設定・調査の企画設計・質的調査法と質的データの分析手法、データの理論化の手法について学び、(3)各自の研究テーマへの実践的な応用力を涵養することである。上記領域の基本文献を講読対象とし、その各文献に示された家族とジェンダー研究の知見を習得するとともに、各文献で採用されている問題設定・調査の企画設計・質的調査法と質的データ分析手法の特性、データの理論化の過程を検討する。最終的には、以上の知見を応用して、質的調査法による各自の研究テーマへの具体的適用を図る。

### 【授業の展開計画】

2013年度は、質的調査法の中でも特にフィールドワークによる聞き取り調査に焦点をあて、質的データ分析ソフト《Max QDA》を用いて演習をすすめていく。

### 【授業の展開計画】

1. イントロダクション：本演習の目的と進め方
2. 質的調査法とは何か：質的調査の特性と種類（聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、ライフヒストリー分析）、その魅力と問題点
3. フィールドワークとは何か (1)
4. フィールドワークとは何か (2)
5. 聞き取り調査の方法 (1)
6. 聞き取り調査の方法 (2)
7. 質的データの整理と分析の手法：質的データ分析ソフト《Max QDA》の活用
8. データから理論へ
9. 質的調査による〈家族〉とジェンダーの社会学(1)：基本文献（著書）の購読
10. 質的調査による〈家族〉とジェンダーの社会学(2)：基本文献（著書）の購読
11. 質的調査による〈家族〉とジェンダーの社会学(3)：基本文献（論文）の購読
12. 質的調査による〈家族〉とジェンダーの社会学(4)：基本文献（論文）の購読
13. フィールドワークとインタビュー調査の個別テーマへの応用実践(1)：受講生の個人発表と指導
14. フィールドワークとインタビュー調査の個別テーマへの応用実践(2)：受講生の個人発表と指導
15. 統括：質的調査法と家族とジェンダーの社会学
16. 統括：質的調査法と家族とジェンダーの社会学

### 【履修上の注意事項】

- ①授業は、受講生の購読文献のレビューと応用実践の口頭発表により進行する。
- ②発表者からの問題提起を受けて討論を行い、質的調査法と各テーマについての理解を深める。

### 【評価方法】

出席回数、購読文献の発表、応用実践の発表、討論の参加姿勢と貢献度で総合的に評価する。

### 【テキスト】

教科書は指定しない。講読文献は履修者の研究関心に応じて選定する。

### 【参考文献】

佐藤郁哉『フィールドワーク（増補版）』『実践 質的データ分析入門』、桜井厚『インタビューの社会学』、山中速人編『マルチメディアでフィールドワーク』、ホルスタイン『アクティブ・インタビュー』、戈木クレイグヒル滋子『グラウンデッド・セオリー・アプローチ』等。その他参考文献については授業時に適宜紹介する。

## 家族社会学特論Ⅱ

担当教員 澤田 佳世

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習の主要テーマは《アジアにおける人口・生殖/家族・ジェンダー》である。性/生殖、身体、恋愛/セックス、家族、人口——私たちが「自然」で「不変/普遍」と思っているものは、いつの時代どの社会でも「自然」で「不変/普遍」なのか。それらは社会や文化、政治や経済とは無関係な「個人的/私的」な問題なのか。

本演習では、「人口問題」や家族、ジェンダーをめぐる私たちの「常識」を問い直し、アジアを中心に、現在の「人口問題」や家族とジェンダーの多様性と多義性、それらの歴史的変容とその要因を考察していく。

### 【授業の展開計画】

本演習では、ジェンダー/セクシュアリティ、エスニシティ/「人種」、階級/階層といった概念をクリティカルに駆使しながら、アジアの人口・生殖/家族・ジェンダーにまつわる過去と現在を、「人口問題」/「近代家族」/「再生産領域のグローバル化」をキーワードに検討していく。

第1回：ガイダンス《アジアの人口・生殖/家族・ジェンダー》

第2-16回（以下の各テーマを数回にわたり取り扱う）

- ①「近代家族」とは何か：家族とジェンダーの社会学
- ②恋愛と結婚の社会学
- ③家族計画とセックスの政治
- ④世界とアジアの「人口問題」とジェンダー
- ⑤リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：「子どもを産む/産まない/産めない」をめぐる政治
- ⑥生殖のグローバル化：身体/子宮の国際商品化、生殖医療ツーリズム
- ⑦再生産領域のグローバル化Ⅰ：ケア労働の国際移転
- ⑧再生産領域のグローバル化Ⅱ：国際結婚プロセスの商業化

※ 内容理解を深めるために、ビデオなど映像資料を利用して授業を進める。

### 【履修上の注意事項】

- ①授業では、受講生に研究関心と関連するテーマの文献をレビューし発表してもらう。
- ②発表者からの問題提起を受けて討論を行い、テーマについての理解を深めていく。

### 【評価方法】

授業での発表、討論への参加姿勢と貢献度で総合的に評価する。

### 【テキスト】

参加者各自の研究関心と希望に応じて選定する。

### 【参考文献】

参加者各自の研究関心と希望に応じて選定する。

## 現代社会文化特論

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 考古学特論 I

担当教員 池田 栄史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

現在の考古学研究は、文化人類学的傾向をもつアメリカ考古学的方法と歴史学的傾向を持つ中国や日本などの東洋考古学的方法の二つのあり方が認められる。沖縄の考古学はこの双方の考古学研究方法が混在する地域であり、その境界領域とも言える。本講義ではこのような双方の考古学研究方法の理論と研究事例を確認し、これが沖縄の考古学研究にどのような影響を及ぼしているかを検証する。その上で、日本列島や韓半島を含めた東アジア地域の考古学研究成果と比較することによって、琉球列島を含む東アジア地域における考古学研究状況の総合的な把握と問題点の抽出を試みる。

### 【授業の展開計画】

基本的に講義形式の授業を行なう。  
ただし、内容に応じて、先行する論文や研究書を輪読しながら、これを素材として講義を進めることもある。大きくは考古学研究史、研究方法論、時代各説、研究特論という順序で、一年間を通した講義を進める。講義の最後に質問を含めた討議の時間を設ける。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

出席と受講生の関心の度合いを見て評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

特に指定しない。講義の中で、随時、紹介する。

## 考古学特論Ⅱ

担当教員 池田 栄史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

現在の考古学研究は、文化人類学的傾向をもつアメリカ考古学的方法と歴史学的傾向を持つ中国や日本などの東洋考古学的方法の二つのあり方が認められる。沖縄の考古学はこの双方の考古学研究方法が混在する地域であり、その境界領域とも言える。本講義ではこのような双方の考古学研究方法の理論と研究事例を確認し、これが沖縄の考古学研究にどのような影響を及ぼしているかを検証する。その上で、日本列島や韓半島を含めた東アジア地域の考古学研究成果と比較することによって、琉球列島を含む東アジア地域における考古学研究状況の総合的な把握と問題点の抽出を試みる。

### 【授業の展開計画】

基本的に講義形式の授業を行なう。  
ただし、内容に応じて、先行する論文や研究書を輪読しながら、これを素材として講義を進めることもある。大きくは考古学研究史、研究方法論、時代各説、研究特論という順序で、一年間を通した講義を進める。講義の最後に質問を含めた討議の時間を設ける。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

出席と受講生の関心の度合いを見て評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

特に指定しない。講義の中で、随時、紹介する。

## 国語教育学特論 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講は、田中実『小説の力 新し作品論のために』（大修館書店）を読むことを通して、国語科における文学的文章教材の在り方を考察する。また田近洵一『創造の〈読み〉新論—文学の〈読み〉の再生を求めて』（東洋館出版）と読み比べることによって、国語科における文学作品の位置付けを考察する。

### 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                   |
|----|-----------------------------|
| 1  | ガイダンス                       |
| 2  | 〈読みのアナーキー〉＝「還元不可能な複数性」を越えて  |
| 3  | 批評する〈語り手〉—芥川龍之介『羅生門』        |
| 4  | 多層的意識構造のなかの〈劇作家〉—森鷗外『舞姫』    |
| 5  | 『こゝろ』という掛け橋—夏目漱石『こゝろ』       |
| 6  | お話（プロット）を支える力—太宰治『走れメロス』    |
| 7  | 〈自閉〉の咆哮—中島敦『山月記』            |
| 8  | 戦争と川端文学—川端康成『ざくろ』           |
| 9  | 「個」に生きた〈作家〉—山川方夫—山川方夫『夏の葬列』 |
| 10 | 《他者》という出口—井伏鱒二『山椒魚』         |
| 11 | 新しい〈作品論〉のために                |
| 12 | 創造の〈読み〉の理論                  |
| 13 | 創造の〈読み〉の視角                  |
| 14 | 〈読み〉の教育の実践的課題               |
| 15 | 総括                          |
| 16 |                             |

### 【履修上の注意事項】

担当する章、担当する項のレポーターを決めて、レジュメを作成する。レジュメの内容は（要約）、（考察）とし、必要に応じて補助資料（参考資料）を添付する。

### 【評価方法】

出席を重視する。また、1～14回において扱った文学作品について、①教材研究資料、②受講者の問題意識に応じたレポートを課し、授業参加状況等と含めて総合的に評価する。

### 【テキスト】

田中実『小説の力 新し作品論のために』（大修館書店）¥2100・田近洵一『創造の〈読み〉新論—文学の〈読み〉の再生を求めて』（東洋館出版）¥2800

### 【参考文献】

全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』

## 国語教育学特論Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講は、田近洵一『戦後国語教育問題史』（大修館書店）を読み、国語科教育学における、授業論、指導論、教材論、学習者論を考えていく。特に文学教育論を中心に行う。

### 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容             |
|----|-----------------------|
| 1  | ガイダンス                 |
| 2  | 戦後国語教育の出発点の問題         |
| 3  | 「言語教育と文学教育」論争         |
| 4  | 現実認識の文学教育             |
| 5  | 問題意識喚起の文学教育           |
| 6  | 「主観主義と客観主義」論争         |
| 7  | 十人十色の文学教育             |
| 8  | 状況認識の文学教育             |
| 9  | 関係認識・変革の文学教育          |
| 10 | 戦後教育としての国語単元学習        |
| 11 | 戦後国語教育史の人びと（1）・・・古田擴  |
| 12 | 戦後国語教育史の人びと（2）・・・増淵恒吉 |
| 13 | 戦後国語教育史の人びと（3）・・・渡辺茂  |
| 14 | 戦後国語教育史の人びと（4）・・・倉澤栄吉 |
| 15 | まとめ                   |
| 16 |                       |

### 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②各回とも担当者を決めて、課題図書の内容のレジメを作成する。③担当箇所に関する参考資料（論文、実践事例等）を添付すること。

### 【評価方法】

(出席点+レジメ点+レポート点) ÷ 3 = 評点

### 【テキスト】

田近洵一『増補版戦後国語教育問題史』（大修館書店）2400円

### 【参考文献】

## 国際社会学特論

担当教員 一新垣 誠

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

講義のテーマは「グローバリゼーション」。産業革命以来、私たちの生活や他者との関わり方、そして国際社会のあり方を大きく変えてきたこの現象を学際的視座から多角的に捉え、その力学を歴史、政治、経済、文化の側面から分析できる力をつける。

知識理解：グローバル化を説明できる。

関心意欲：国際情勢に興味を持てる。

思考判断：国際社会の仕組みを指摘できる。

態度：理論的思考と分析力を持つ。

## 【授業の展開計画】

本講義では、激しく流動化する現在の国際関係を、「グローバリゼーション」というキーワードを基に読み解く。近代国家の枠組みを超えて生じる地球環境問題や、自由市場経済と多国籍企業のあり方、難民や国際テロリズムの問題など、21世紀における新たな世界情勢を捉える視点について考える。また、理論的枠組みに加え、アジアや沖縄など特定の地域に焦点を絞り、それぞれの地域がお互いにどう関係し合っているのかを、具体的に学ぶ。

| 週  | 授 業 の 内 容                         |
|----|-----------------------------------|
| 1  | グローバリゼーションと国際社会： 概観               |
| 2  | 貧困、紛争、環境： 国際社会の抱える課題と取り組み、その歴史と現状 |
| 3  | 開発教育と「地球市民」という概念                  |
| 4  | 人口移動とアイデンティティの多様化                 |
| 5  | 人権問題、ジェンダー・ジャスティス                 |
| 6  | 新植民地主義とエスニック・民族紛争                 |
| 7  | 宗教紛争と国際テロリズム                      |
| 8  | トランスナショナルな社会形態と新たなナショナリズムの台頭      |
| 9  | NGO・NPO： 新たな社会変革への始動              |
| 10 | 環境問題と国際社会                         |
| 11 | 世界の貧困と「ミレニアム開発目標」                 |
| 12 | 軍事主義と国際社会                         |
| 13 | グローバリゼーションと沖縄                     |
| 14 | プレゼンテーションとディスカッション                |
| 15 | プレゼンテーションとディスカッション                |
| 16 |                                   |

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席、授業やディスカッションへの参加、課題やリサーチペーパーをもとに総合的に評価します。（講義内容に関連するテーマをもとに、リサーチペーパーの提出を義務づけます）

## 【テキスト】

講義に必要な文献、資料および教材は担当者が準備します。

## 【参考文献】

## 社会学研究法特論

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

本科目は、社会調査に基づいた研究テーマを有する大学院生が社会調査の企画と設計、調査の実施、分析・集計に関する知識と技能を実践的に習得することを目的とするものである。とくに、社会調査の技法に関する初歩から、研究テーマと方法論との論理構成上の積み上げ、さらに社会調査の実践等に関して指導していくものとする。調査方法論の基礎や調査倫理はもちろんのこと、質的調査の技法と分析・整理のポイント、量的調査に関する調査方法の仮説構成、調査票作成、サンプリングの理論と技法、対象者・フィールドの選定などをレクチャーし、調査の実施、調査データの整理等を行なう。

### 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                                    |
|----|--|
| 1  | 社会調査の初歩（社会調査の企画・設計に向けたオリエンテーション）             |
| 2  | 社会調査と調査倫理                                    |
| 3  | 研究方法とデータ収集法との論理的関係（個別具体的テーマから概念構成と仮説提示の論理へ）  |
| 4  | 社会調査の入口（学術情報ネットワークの活用術、CiNii等）               |
| 5  | 社会調査の種類—質的調査①（参与観察法と非参与観察法）                  |
| 6  | 社会調査の種類—質的調査②（ドキュメント分析と生活史法）                 |
| 7  | 社会調査の実践I—質的調査の実践（個別テーマに則し質的調査を用いてデータ収集を実践する） |
| 8  | 社会調査の種類—量的調査①（概念構成および仮説提示から変数構築に向けて）         |
| 9  | 社会調査の種類—量的調査②（調査票の作成方法：ワーディング等の基本ルール）        |
| 10 | 社会調査の種類—量的調査③（対象者・フィールドの選定法、およびサンプリングの理論と技法） |
| 11 | 社会調査の実践II—量的調査の実践（個別テーマに則し簡単な調査票調査の実践）       |
| 12 | 量的データの整理①（エディティング、コーディング、データクリーニング）          |
| 13 | 量的データの整理②（フィールドノート作成、コードブック作成）               |
| 14 | 量的分析とグラフ作成（標本誤差と簡単な検定法、およびSPSS等のPC活用術）       |
| 15 | まとめとふりかえり（量的調査の報告レポート、および質的・量的調査に関する総合的なまとめ） |
| 16 | 補習   |

### 【履修上の注意事項】

内容が抽象的にならないように、修士論文の研究テーマに即したかたちで具体的に社会調査の企画・設計、実践等についてレクチャーと議論を展開する。よって、大学院入学時の研究計画書を使用するので、持参すること。

### 【評価方法】

提出物（論文・レポートなど）、出席回数、その他（発表やディスカッションへの取り組み姿勢）

### 【テキスト】

大谷信介他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 社会心理学特論 I

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 社会心理学特論Ⅱ

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 社会統計学特論

担当教員 原田 真知子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

この科目は、社会文化現象に関する概念モデルの計量的分析方法を修得することを目的とします。社会学的研究では、概念を経験的に測定可能な指標に操作し、作業仮説で表現します。この作業仮説の妥当性と有効性を検証するために、しばしば統計的分析技法が用いられます。この科目では、社会学的研究で用いられることの多い離散データ（クロス集計表や2値データ）の扱い方を中心に、複数の変数間の因果関係やデータの構造をどのように分析し、仮説検証するのかを解説します。取り上げる多変量解析法は、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、ログリニア分析に限定し、基本から丁寧に解説します。

### 【授業の展開計画】

授業は以下の3部構成とします。

1) 多変量解析のための統計の理論的基礎を概説します。統計パッケージソフト(SPSS)を用いてデータを処理しながら統計の基礎を復習します。2) 各々の多変量解析の特性と利用上の留意点を実践的に学べるよう、実際の社会調査データを用いた分析実習を行います。SPSSによる分析手順と結果の解釈法および分析結果の記述方法を学びます。3) 最後に、履修生の研究テーマに関する先行研究のなかから、授業で紹介した多変量解析法を用いた実証的研究を選定し、論文の読解を行います。仮説の立て方やデータの選択と加工、分析手法の選択、結果の記述と考察について先行研究に学ぶことは、自身の分析論文執筆に参考になるはずです。

#### PartI 多変量解析のための基本統計法

第1～2回 多変量解析とは、多変量解析法の種類、統計パッケージソフトの基本的操作

第3～4回 多変量データ行列と基本統計量、共分散と分散、標準偏差、相関係数

#### PartII 多変量解析の実際

第5回 重回帰分析(1)・・・回帰分析の基本、モデルの評価

第6回 重回帰分析(2)・・・回帰モデルの比較検討、分析時の注意点

第7回 回帰分析の応用・・・独立変数に質的変数を含んだ回帰分析、一般線形モデル

第8回 ロジスティック回帰分析(1)・・・オッズと対数オッズ

第9回 ロジスティック回帰分析(2)・・・係数の推定と検定、モデルの評価と解釈

第10回 ロジスティック回帰分析(3)・・・モデルの比較検討

第11回 ロジスティック回帰分析(4)・・・交互作用を含んだ分析、分析時の注意点

第12回 クロス表の分析(1)・・・独立性の検定、関連係数

第13回 クロス表の分析(2)・・・多重クロス表のログリニア分析、期末レポート概要

第14回 クロス表の分析(3)・・・多重クロス表のログリニア分析、期末レポートの相談

#### PartIII 多変量解析法を用いた研究事例

第15回 多変量解析法を用いた原著論文の読解と討論、期末レポートの相談

第16回 総括：修士論文への応用、記述上の注意点、期末レポートの提出

### 【履修上の注意事項】

- 1 調査データからクロス集計表を作成した経験があることが望ましい。
- 2 プリントや参考論文などの資料を毎回配布するので、しっかりファイリングすること。

### 【評価方法】

平常点(40%)と期末レポート点(60%)で評価する。平常点は授業への参加と実習課題の進捗状況による。

### 【テキスト】

履修生の学習歴を聞いてからどちらか一冊を指定する。

岩井紀子ほか「調査データ分析の基礎：JGSSデータとオンライン集計の活用」有斐閣 2800円 または 村瀬洋一ほか共編「SPSSによる多変量解析」オーム社 2800円

### 【参考文献】

Alan Agresti「カテゴリーカルデータ解析入門」サイエンティスト社、足立浩平「多変量データ解析法」ナカニシヤ出版、太郎丸博「人文科学 カテゴリーカルデータ解析」ナカニシヤ出版、柳井晴夫「多変量解析 実例ハンドブック」朝倉書店

## 植民地社会特論 I

担当教員 鳥山 淳

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

近代沖縄の経験を植民地問題の視点で捉え直し、さらに日本の植民地となった台湾や朝鮮半島、国際連盟の委任統治領として日本が統治した南洋群島などにおける支配構造にも視野を広げる。それらを通して、植民地主義として考察すべき問題についての理解を深めることを目的とする。

### 【授業の展開計画】

- (1) 沖縄の「併合」と分島問題 (第1回～第3回)
- (2) 徴兵制をめぐる確執 (第4回～第5回)
- (3) 砂糖経済の行き詰まりと沖縄救済論 (第6回～第8回)
- (4) 移民・出稼ぎと同郷意識 (第9回～第10回)
- (5) 生活改善と戦時動員 (第11回～第13回)
- (6) 戦場における軍隊と住民 (第14回～第15回)

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

輪読するテキストに関する報告内容を中心に評価する。

### 【テキスト】

特定のテキストは指定せず、テーマごとに輪読する複数のテキストを提示する。

### 【参考文献】

講義の中で適宜提示する。

## 植民地社会特論Ⅱ

担当教員 鳥山 淳

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

米国統治下におかれた沖縄の経験を植民地問題の視点によって捉え、さらに同時代のミクロネシアや朝鮮半島などに視野を広げながら、脱植民地化の時代における植民地主義について考察することを目的とする。

### 【授業の展開計画】

- (1) 固定化される軍事基地 (第1回～第3回)
- (2) 沖縄の帰属問題と対日講和条約 (第4回～第6回)
- (3) 占領批判と反共主義 (第7回～第9回)
- (4) 復帰をめぐる問い (第10回～第12回)
- (5) 核軍拡競争と信託統治領 (第13回～第15回)

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

テキストの輪読における報告内容を中心に評価する。

### 【テキスト】

特定のテキストは指定せず、テーマに応じて複数のテキストを提示する。

### 【参考文献】

講義中に適宜提示する。

## 南島芸能特論 I

担当教員 鈴木 耕太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

組踊テキストを影印本（コピーを各自で作成）によって読んでいく。変体仮名や漢字のくずし字を読み解くという基礎的な力の涵養と組踊詞章の解釈ができるようになることを目指していく。尚家本「組踊集」の「大川敵討」を採り上げる。

### 【授業の展開計画】

第1・2講—組踊概説／組踊詞章の特質／組踊詞章の表記法について概説する。

第3講以降—テキストに従って変体仮名・漢字くずし字の読み解きについて訓練する。受講生一人ずつ発表担当をあらかじめ決め、各人が事前に学習してきた読みと語釈・文法等、詞章の解釈のために必要な事柄を発表していく。受講生は発表までに知識・情報を事前に収集し、研究史を視野に入れた各事項の解説が出来るよう準備すること。

第16講. テスト

### 【履修上の注意事項】

毎回の講義に向けて、上記の事前準備を欠かさないこと。

### 【評価方法】

各学期を通した講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。

### 【テキスト】

講義資料としてレジюмеや資料のコピーを配布する。

### 【参考文献】

くずし字解読の為の字典は必須。児玉幸多編『くずし字用例辞典』（普及版）（1981年 東京堂出版。5800円）

沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）

その他の参考図書については随時指示する。

## 南島芸能特論Ⅱ

担当教員 一波照間 永吉

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

組踊テキストを影印本（コピーを各自で作成）によって読んでいく。変体仮名や漢字のくずし字を読み解くという基礎的な力の涵養と組踊詞章の解釈ができるようになることを目指していく。前期に引き続き尚家本「組踊集」の「大川敵討」の読みを進めていく。

### 【授業の展開計画】

テキストに従って変体仮名・漢字くずし字の読み解きについて訓練する。受講生一人ずつ発表担当をあらかじめ決め、各人が事前に学習してきた読みと語釈・文法等、詞章の解釈のために必要な事柄を発表していく。受講生は発表までに知識・情報を事前に収集し、研究史を視野に入れた各事項の解説が出来るよう準備すること。

### 【履修上の注意事項】

毎回の講義に向けて、上記の事前準備を欠かさないこと。

### 【評価方法】

各学期を通した講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

くずし字解読の為の字典は必須。児玉幸多編『くずし字用例辞典』（普及版）（1981年 東京堂出版。5800円）  
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）  
その他の参考図書については随時指示する。

## 南島言語文化特殊研究 I

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球の民俗芸能・宮廷芸能・沖縄芝居は密接なつながりがあり、それゆえ三者の特質について明確な区別がなく、混同した芸能論が展開されることが多い。

ところが、近代以降の芸能史をみると、宮廷芸能は古典芸能への道を歩み、沖縄芝居は大衆の商業演劇へと進んだ。また、村踊りの民俗芸能は奉納芸能から娯楽芸能へと変化しつつあり、それぞれ異なったジャンルの芸能の道を歩んでいる。

よって、前期の本講義は、上記の視点から、村踊りと沖縄芝居について考える。

## 【授業の展開計画】

第1回 神歌と踊り

第2回 近代における沖縄の民俗芸能概説

第3回～第8回 民俗芸能（村踊り）詳論

竹富島の種子取際、名護市屋部の八月踊り、多良間島の八月踊り、黒島の豊年祭、小浜島の結願祭、伊江島の村踊りなどのビデオ鑑賞を行いつつ、それぞれのムラにおける民俗芸能について考える。

第9回 沖縄芝居の誕生

第10回～第15回 沖縄歌劇及び沖縄口芝居詳論

「泊阿嘉」「奥山の牡丹」「薬師堂」「伊江島ハンドー小」「丘の一本松」などのビデオを鑑賞しつつ、沖縄芝居について考える。

第16回 全体のまとめ、レポート提出

## 【履修上の注意事項】

劇場やムラ祭りなどに足繁く通って、現在行われている民俗芸能、古典芸能、沖縄芝居を見ることが望ましい。

## 【評価方法】

レポート・出席・発表内容

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献】

矢野輝雄著『沖縄芸能史話』

## 南島言語文化特殊研究 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

I（修士1年）琉球列島で話されている琉球語諸方言の研究に取り組み、その構造を明らかにする。琉球語研究が琉球文学の読解に結びつくことにも注意をはらう。さらに、危機言語とされる琉球語の再生のために必要な試みについて考える。院生は各人のテーマに従い、修士論文の枠組を構築する。担当教員は、適宜、修論指導を行う。

なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。

### 【授業の展開計画】

1. 琉球語諸方言の概説
2. 琉球語諸方言の研究史
3. 琉球語諸方言と琉球文学
4. 危機言語とその再活性化
5. 方言調査のフィールドワーク
6. フィールドワークのまとめ
7. 琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答
8. 修士論文についての発表および質疑応答

### 【履修上の注意事項】

発表の担当者は配布用のレジュメを準備し、授業で検討できるようにしておくこと。  
授業では積極的に発言すること。

### 【評価方法】

研究レポートを提出する。  
出席はもちろんのこと、発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行う授業への積極的な関わり方を評価する。

### 【テキスト】

適宜、指示する。

### 【参考文献】

『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。  
『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）  
その他、適宜、指示する。

## 南島言語文化特殊研究Ⅱ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球の民俗芸能・宮廷芸能・沖縄芝居は密接なつながりがあり、それゆえ、三者の明確な区別がなく、混同した琉球芸能論が展開されることが多い。

ところが、近代芸能史をみると、宮廷芸能は古典芸能への道を歩み、沖縄芝居は大衆の商業演劇へと進んだ。また、村踊りの民俗芸能は奉納芸能から娯楽芸能へとへんかしつつあり、それぞれが異なったジャンルの芸能の道を歩んでいる。

よって、後期の本講義は、上記の視点から、琉球舞踊と組踊について考える。

## 【授業の展開計画】

第1回 オモロと踊り

第2回 宮廷芸能（御冠船踊）

第3回 宮廷芸能の古典化

第4回～第11回 古典組踊詳論

「執心鐘入」「銘苺子」「孝行之巻」「女物狂」「万歳敵討」「花売りの縁」「手水の縁」などを鑑賞しつつ、古典組踊の特質について考える。

第12回 村踊りの組踊

第13回 沖縄芝居と組踊

第14回～第15回 古典舞踊と雑踊り

第16回 全体のまとめ、レポート提出

## 【履修上の注意事項】

村踊りの組踊、新作組踊、古典組踊を数多く観ることが望ましい。

## 【評価方法】

レポート・出席・発表内容

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』『組踊を聴く』

## 南島言語文化特殊研究Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

Ⅱ（修士2年以上）院生は、修士論文の完成に向けて取り組む。担当教員は、適宜、修論指導を行う。なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。

## 【授業の展開計画】

1. 琉球語諸方言の概説
2. 琉球語諸方言の研究史
3. 琉球語諸方言と琉球文学
4. 危機言語とその再活性化
5. 方言調査のフィールドワーク
6. フィールドワークのまとめ
7. 琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答
8. 修士論文についての発表および質疑応答

## 【履修上の注意事項】

発表の担当者は配布用のレジュメを準備し、授業で検討できるようにしておくこと。  
授業では積極的に発言すること。

## 【評価方法】

研究レポートを提出する。  
出席はもちろんのこと、発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行う授業への積極的な関わり方を評価する。

## 【テキスト】

適宜、指示する。

## 【参考文献】

『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。  
『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）  
その他、適宜、指示する。

## 南島言語文化特論

担当教員 近藤 健一郎

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

昨今の沖縄においては、県内各地での「語やびら大会」など言語の継承活動、「しまくとぅばの日」の制定、いくつもの「沖縄語の入門」の刊行などのように、「しまくとぅば」（それを何と呼ぶかが論争的である）への関心が高まっているように思われる。このような状況を目前にし、近現代沖縄におけることばの教育の過去一現在一未来を往還的に考察し、南島文化を専攻する院生諸氏の研究の視野を広げることには貢献したい。授業では、近現代沖縄におけることばの教育について1870～1960年代を通史的にたどる。その際、関連する研究を突き合わせて検討し、また史料読解により先行研究を再検討したりするなど、その検討、実証の研究過程を重視する。

### 【授業の展開計画】

1. ガイダンス（1）－講義のねらい、予定等
2. ガイダンス（2）－近現代沖縄教育制度の特徴、講義で用いる史料について等
3. 学校制度の導入と日本語教育の開始（1）－『沖縄対話』（1880年）
4. 学校制度の導入と日本語教育の開始（2）－『沖縄対話』をめぐって
5. 方言札のはじまり（1）－前史・『沖縄県用尋常小学読本』（1897年）
6. 方言札のはじまり（2）－近藤「方言札の出現」と井谷泰彦『沖縄の方言札』
7. 方言札のはじまり（3）－近藤「方言札の出現」と井谷泰彦『沖縄の方言札』
8. 方言札の広がりとはまどい－沖縄県立第一中学校の方言札をめぐって（1910年代半ば）
9. 移民の奨励と教育・ことば（1）－『島の教育』（1928年）
10. 移民の奨励と教育・ことば（2）－『島の教育』（1928年）
11. 新たな教育方法論、教育目的論の模索（1）－『沖縄教育』掲載記事
12. 新たな教育方法論、教育目的論の模索（2）－『沖縄教育』掲載記事
13. 国家総動員体制下の標準語励行運動（1）－『会話読本（第二輯）』（1943年）
14. 国家総動員体制下の標準語励行運動（2）－大東亜共栄圏の標準語という論理
15. アメリカ占領初期のことばの教育－教員団体の諸機関誌掲載記事
16. 復帰運動期の方言札－小熊英二「1960年の方言札」

### 【履修上の注意事項】

・少人数開講が見込まれるため、最低限の講義は行なうが、授業時間内に各種資料や論文を共同で読み進める形態をとる予定。講読にあたっては、歴史的事実の追究を行なうとともに、受講者の関心に応じてそのことと現在・未来の相互作用をも議論したい。・資料や論文は、集中講義前あるいは初日に配布する予定。・講義初日のガイダンス（1）では、受講者の皆さんにも、修士論文で取り組もうとしている課題なども含めて自己紹介をお願いしたい。・受講者の関心や要望に応じて、担当者のできる範囲での講義内容の追加や削除もありうる。

### 【評価方法】

・平常点（授業における資料や論文の講読への発言等）。  
 ・レポート点（授業終了後、A4用紙1～2枚程度で、集中講義から考えたこと、学んだこと、今後の課題と思うことをレポートとして提出してもらう）。  
 これらにより、総合的に成績判定を行なう。

### 【テキスト】

・特定のテキストは指定しないが、上記【授業の展開計画】に記したものを読み進める。それらは、コピー等により配布する。

### 【参考文献】

・授業において適宜紹介する。

## 南島史学特論 I A

担当教員 田名 真之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

『科試案文集』などの講読を通して、近世末期の琉球王国が直面していた政治的課題、国内外の問題について検証する。関連史料についても適宜参照する。

## 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                        |
|----|----------------------------------|
| 1  | 総論                               |
| 2  | 史料講読 — 毎回範囲を割り当てて輪読、内容について検討する   |
| 3  | 史料講読 //                          |
| 4  | 史料講読 //                          |
| 5  | 史料講読 //                          |
| 6  | 史料講読 //                          |
| 7  | 史料講読 //                          |
| 8  | 史料講読 //                          |
| 9  | 史料講読 //                          |
| 10 | 史料講読 //                          |
| 11 | 史料講読 //                          |
| 12 | 史料講読 //                          |
| 13 | 史料講読 — 史料からテーマをみつけてレポート(小論)発表・検討 |
| 14 | 史料講読 — //                        |
| 15 | 史料講読 — //                        |
| 16 |                                  |

## 【履修上の注意事項】

1. 古文書は活字のみならずオリジナルの草書も扱うので、「くずし字辞典」など用意すること。
2. 関連する漢文史料も扱う。
3. 前後期通して履修するのが望ましい。

## 【評価方法】

毎回の講読と報告、小論の発表内容で評価する。

## 【テキスト】

テキストの史料は、プリントして配布する。

## 【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

## 南島史学特論 I B

担当教員 田名 真之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

前期に引き続き『科試案文集』と関連文書を講読する。首里王府の評定所の役割などについても学ぶ。

## 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                       |
|----|---------------------------------|
| 1  | 総論                              |
| 2  | 史料講読 — 一定範囲を割り当てて読みと内容を報告させる    |
| 3  | 史料講読 //                         |
| 4  | 史料講読 //                         |
| 5  | 史料講読 //                         |
| 6  | 史料講読 //                         |
| 7  | 史料講読 //                         |
| 8  | 史料講読 //                         |
| 9  | 史料講読 //                         |
| 10 | 史料講読 //                         |
| 11 | 史料講読 //                         |
| 12 | 史料講読 //                         |
| 13 | 史料講読 — 史料中から題材を探してレポート(小論)報告 討論 |
| 14 | 史料講読 //                         |
| 15 | 史料講読 //                         |
| 16 |                                 |

## 【履修上の注意事項】

1. 古文書は活字(楷書)のみならず、オリジナルの草書体も扱うので、『くずし字辞典』など準備すること。
2. 関連する漢文史料も扱う。

## 【評価方法】

毎回の読みと理解、小論の発表などで評価する。

## 【テキスト】

史料をプリントして配布する。

## 【参考文献】

授業で適宜紹介する。

## 南島史学特論ⅡA

担当教員 西里 喜行

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義のテーマは「琉球・沖縄史の転換期の研究——琉球処分再検討——」である。従来、「琉球処分」は近代日本の領土問題や民俗統一の問題として論ぜられ、琉球・沖縄の「歴史的個性（主体性）」を軽視あるいは無視して、「所属」問題として位置づけられて来た傾向が強い。本講義では、19世紀後半の東アジア国際秩序の再編成期において、琉球・沖縄が主体的にどのような選択肢を追求したのかという視点から、「琉球処分」の諸側面を再検討したい。

## 【授業の展開計画】

- ①序論——「琉球処分論」の視点と論点 [第1回]
- ②近世東アジアの国際秩序と琉球王国 [第2回]
- ③アヘン戦争後の東アジア国際秩序と琉球問題 [第3～4回]
- ④明治政府の成立と対外関係の再編成 [第5～6回]
- ⑤琉球の「内国」化をめぐる日琉抗争 [第7～8回]
- ⑥廃琉置県の諸相と内外の論調 [第9～10回]
- ⑦琉球問題をめぐる日清交渉とその周辺 [第11～13回]
- ⑧尖閣諸島の領有権問題 [第14回]
- ⑨総括——琉球・沖縄の選択肢と「自己決定権」 [第15回]

## 【履修上の注意事項】

琉球・沖縄史の概説書を一読しておくことが望ましい。

## 【評価方法】

- ①講義中の質疑応答、②史料の読解力、③受講態度、その他

## 【テキスト】

## 【参考文献】

- ①安里進他『沖縄県の歴史』（山川出版社、2004年）
- ②豊見山和行・高良倉吉編『琉球・沖縄と海上の道』（吉川弘文館、2005年）
- ③西里喜行著『清末中琉日関係史の研究』（京都大学学術出版会、2005年）

## 南島史学特論ⅡB

担当教員 一來間 泰男

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

沖縄の近代史を中心に講義する。その理解を助けるため、前近代と現代にも触れる。南島文化に関心のある者に対して、歴史の側から思考材料を提供する。そのことを通して、沖縄社会の特質を学ぶ。

## 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                       |
|----|---------------------------------|
| 1  | 沖縄人はどこから来たか                     |
| 2  | 原始時代（沖縄縄文時代・弥生～平安並行時代）          |
| 3  | グスク時代（グスク・按司・九州およびそれより南の島々との交流） |
| 4  | 琉球王国の成立（倭寇・明の海禁政策・朝貢と冊封・交易の実態）  |
| 5  | 琉球王国の展開（16世紀）                   |
| 6  | 薩摩藩支配下の琉球王国（その政治）               |
| 7  | 薩摩藩支配下の琉球王国（その経済）               |
| 8  | 琉球処分前後（ペリーの来航・琉球藩・台湾出兵）         |
| 9  | 近代化準備期（旧慣の存続・地方制度改革・商品＝貨幣経済の端緒） |
| 10 | 近代化始動期（土地整理事業・杣山処分・ウェーキ＝シカマ関係）  |
| 11 | 慢性的不況期（そてつ地獄・移民と出稼ぎ・家族のあり方）     |
| 12 | 準戦時期（徴兵・南洋出稼ぎ・農業の変化・沖縄県振興計画）    |
| 13 | 戦時期（徴兵・徴用・学徒動員・軍需インフレ）          |
| 14 | 沖縄戦の終了とアメリカ軍の占領開始               |
| 15 | アメリカ軍占領支配下の沖縄                   |
| 16 | 日本復帰後の沖縄                        |

## 【履修上の注意事項】

特になし

## 【評価方法】

## 【テキスト】

毎回、プリントを配る。

## 【参考文献】

## 南島社会特論 I

担当教員 石原 昌家

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球処分前後から沖縄社会の特質について、軍事上、日本国家からの位置づけや沖縄の伝統的な平和思想について、まず、資料にもとづきながら分析していく。

さらに昭和戦前期までの日本軍部による沖縄県民観や皇民化教育とともに軍事化される沖縄社会の変容という観点で論じていく。

## 【授業の展開計画】

- 1) 伝統的平和思想について①
- 2) 伝統的平和思想について②
- 3) 伝統的平和思想について③
- 4) 沖縄社会の軍事的位置①
- 5) 沖縄社会の軍事的位置②
- 6) 沖縄社会の軍事的位置③
- 7) 沖縄での皇民化教育①
- 8) 沖縄での皇民化教育②
- 9) 沖縄での皇民化教育③
- 10) 軍部の沖縄県民観①
- 11) 軍部の沖縄県民観②
- 12) 軍部の沖縄県民観③
- 13) 戦時体制の沖縄社会①
- 14) 戦時体制の沖縄社会②
- 15) 戦時体制の沖縄社会③
- 16) まとめ

## 【履修上の注意事項】

配布資料を毎時間持参すること

## 【評価方法】

出席点  
レポート提出

## 【テキスト】

## 【参考文献】

『具志川市史』第五巻、『浦添市史』第五巻、『資料日本現代史』8

## 南島社会特論Ⅱ

担当教員 石原 昌家

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

戦中・戦後の歴史体験と歴史認識という視点で沖縄社会をまず論じていく。戦中・戦後の歴史体験を、類型化して、それぞれの歴史認識を踏まえながら具体的にみていく。さらに、戦後沖縄社会を「密貿易社会」、「援護法社会」、「郷友会社会」、「基地オキナワ」と位置づけ、それぞれの社会的特質を具体的を例を挙げながら剔出していく。

### 【授業の展開計画】

- 1) 戦中の歴史体験①
- 2) 戦中の歴史体験②
- 3) 戦中の歴史体験③
- 4) 戦後の歴史体験①
- 5) 戦後の歴史体験②
- 6) 戦後の歴史体験③
- 7) 「密貿易社会」①
- 8) 「密貿易社会」②
- 9) 「援護法社会」①
- 10) 「援護法社会」②
- 11) 「郷友会社会」①
- 12) 「郷友会社会」②
- 13) 「基地オキナワ」①
- 14) 「基地オキナワ」②
- 15) 「基地オキナワ」③
- 16) まとめ

### 【履修上の注意事項】

配布資料を毎時間持参すること

### 【評価方法】

出席点  
レポート提出

### 【テキスト】

### 【参考文献】

資料配布

## 南島社会文化特殊研究 I

担当教員 澤田 佳世

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

### 【授業のねらい】

本演習では、社会文化領域にて修士論文を執筆するための基盤づくりとして、社会科学における学術論文を執筆するための基礎的な作業方法を学びながら、①研究課題の設定、②テーマに関連する先行研究の検討、③分析枠組みと仮説の構築、④調査・分析方法の検討を行う。

### 【授業の展開計画】

前期は、研究課題の設定とテーマの焦点化、テーマに沿った先行研究の整理を行い、修士論文執筆までの一連の研究サイクル（テーマ設定、「問い」の設定、情報の収集・整理・生産、コンテンツづくり、構成の検討・決定、分析と発見、論文作成）を実践的に学んでいく。

前期後半には、修士論文の予備的概要（テーマ、目的、問題の所在、仮説、予備的章立て、文献リスト）と研究計画（調査研究手法）を作成し報告する。

後期は、論文概要および研究計画に沿って調査研究を進めながら、分析方法について検討を深め、修士論文の具体的な構想を固めていく。

①前期オリエンテーション（4月）

②修士論文の課題設定についての検討：テーマ設定と焦点化（4月）

③修士論文の課題に関する先行研究の検討（5月・6月前半）

④修士論文の構成についての検討（6月後半・7月前半）

修士論文の予備的概要報告（テーマ、目的、問題の所在、仮説、予備的章立て、文献リスト）

⑤研究計画の作成と報告：調査研究手法の検討（7月後半）

⑥後期オリエンテーション（10月）

⑦夏季休暇中の研究成果の検討と報告（10月）

⑧修士論文の作成に必要なデータ・資料についての検討（11月）

⑨修士論文の構成の具体化（12月）

⑩修士論文の各章の内容についての検討（1月）

### 【履修上の注意事項】

各自の研究テーマにもとづいて、各々具体的な段階における指導を受けながら、進捗状況について随時報告し、「特殊研究Ⅱ」における論文草稿の形に結実させていくこと。

### 【評価方法】

修士論文作成過程、報告内容および討論への参加によって評価する。

### 【テキスト】

各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。

### 【参考文献】

各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。

## 南島社会文化特殊研究 I

担当教員 鳥山 淳

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

修士論文執筆に向けた準備段階として、学術論文を作成するための基礎的な作業方法を身に付ける。各受講者の研究テーマに沿って研究計画を作成し、具体的な調査および資料収集を進める。

### 【授業の展開計画】

- ①研究計画書を作成し、1年間の作業スケジュールを確認する。
- ②テーマに関連する論文のリストアップし、その内容を把握する。
- ③テーマに適った調査および資料収集方法を考察する。
- ④夏期休暇中の具体的な研究計画を作成する。
- ⑤夏期休暇中の研究成果をまとめる。
- ⑥研究の進捗状況と課題を把握し、論文構想の具体化を図る。
- ⑦修士論文の章立て案を作成する。

### 【履修上の注意事項】

各自の研究テーマについて進捗状況の報告を随時求める。

### 【評価方法】

報告内容および議論への参加によって評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

必要に応じて指示する。

## 南島社会文化特殊研究Ⅱ

担当教員 澤田 佳世

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習では、「特殊研究Ⅰ」における研究成果を引き継ぎながら、各自設定した研究課題における調査・分析方法の再検討、ならびに分析結果についての検討を行い、修士論文を完成させる。

前期は、「特殊研究Ⅰ」における研究成果を確認し、論文執筆に向けた問題点を把握したうえで、論文の具体的な構成を固める。その後、各章の内容について再検討しながら、修士論文の作成に必要なデータ・資料について検討を深め、調査・分析を進めていく。

後期は、論文執筆に着手したうえで、各章の草稿報告と修正を重ね、修士論文を完成させる。

### 【授業の展開計画】

- ①前期オリエンテーション（4月）
- ②修士論文提出までの作業計画の作成・報告（4月）
- ③修士論文の構成についての検討・決定（5月）  
修士論文の概要報告（テーマ、目的、問題の所在・先行研究の整理、仮説、章立て、文献リスト）
- ④修士論文の各章の内容についての検討・決定（6月）
- ⑤修士論文の作成に必要なデータ・資料についての検討・決定（7月）
- ⑥修士論文の草稿執筆
- ⑦後期オリエンテーション：夏季休暇中の研究成果の報告（10月）
- ⑧修士論文の各章の草稿について検討（10月・11月・12月）
- ⑨修士論文の草稿の提出（12月上旬）
- ⑩修士論文の草稿についての検討と修正（12月）
- ⑪修士論文の完成稿の提出、最終試験と発表会の準備（1月）

### 【履修上の注意事項】

各自の研究テーマにもとづいて、各々具体的な段階における指導を受けながら、進捗状況について随時報告し、修士論文として結実させていくこと。

### 【評価方法】

修士論文作成過程、報告内容および討論への参加、提出論文によって評価する。

### 【テキスト】

各回の授業で提示する。

### 【参考文献】

各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

## 南島社会文化特殊研究Ⅱ

担当教員 鳥山 淳

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

前年度の研究成果を確認しながら修士論文の執筆に向けた取り組みを進め、報告を重ねながら論文として完成させる。

### 【授業の展開計画】

- ①前年度の取り組みをふまえて論文提出までの作業計画を作成する。
- ②中間報告に向けて論文の構成を確定させる。
- ③中間報告での指摘をふまえて細部の見直しを行い、夏期休暇中の課題を確認する。
- ④夏期休暇中の成果をまとめ、論文執筆を進める。
- ⑤指導教員のチェックを受けながら論文の完成度を高める。
- ⑥下書き原稿を提出し、本提出に向けて手直しを行う。
- ⑦本提出後、最終試験と発表会の準備を行う。

### 【履修上の注意事項】

各自の論文作成状況について、随時報告を求める。

### 【評価方法】

報告内容および提出論文によって評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

必要に応じて指示する。

## 南島先史文化特殊研究 I

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

琉球列島に形成された先史、原史文化の諸要素を個々に取りあげ、周辺地域との交流がどの様に関与したかを考える。その際には隣接科学の多様な研究成果をも取り入れる。

### 【授業の展開計画】

修士論文の作成に必要な専用語や基本的な考古学的思考法の内容について整理を行う。

第1週 講義の趣旨、進め方などのガイダンス

第2週～第7週 新石器文化に関する多様な研究報告を素材に講義

第8週～第15週 問題の背景説明

受講者による発表と討議

### 【履修上の注意事項】

講義で示す論考、文献資料を各自で読み込むこと。

### 【評価方法】

レポートを提出し、授業における討議などを合わせて評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

講義時に提示する。

## 南島先史文化特殊研究Ⅱ

担当教員 上原 静

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球列島に形成された先史、原史文化の諸要素を個々に取りあげ、周辺地域との交流がどの様に関与したかを考える。その際には隣接の科学の多様な研究成果をも取り入れることもする。

## 【授業の展開計画】

## 2. 授業の展開計画

第1個 講義の趣旨、進め方などのガイダンス

第2週～第7週 グスク時代、近世に関する多様な論考を素材に講義

第8週～第15週 問題の背景説明

受講者による発表と討議

## 【履修上の注意事項】

講義で示す論考、文献資料を各自で読み込むこと。

## 【評価方法】

レポートを提出し、授業における討議などを合わせて評価する。

## 【テキスト】

講義時に提示する。

## 【参考文献】

随時、講義時に紹介する。

## 南島先史文化特論 I

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球列島に展開した先史文化について講義を行う。旧石器時代については、アフリカの礫器文化から取りあげ、東進する伝播過程のなかで沖縄の石器文化を位置づけ紹介する。また、新石器時代についても、その編年的な大綱はできつつあるが、その系譜について幾つかの議論があることを取りあげる。さらに、旧・新石器時代、編年、文化など考古学用語における概念の形成過程について確認していく。

## 【授業の展開計画】

修士論文の作成に必要な研究方法を習得し、他地域、他分野からの理解と知識を広げることを認識、実践してもらう。

第1週 講義の趣旨、進め方などのガイダンス

第2週～第7週 旧石器文化の東進と沖縄

第8週～第15週 問題の背景説明

受講者による発表と討議

## 【履修上の注意事項】

講義で示す論考、文献資料を各自で読み込むこと。

## 【評価方法】

レポートを提出し、授業における討議などを合わせて評価する。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

講義時に提示する。

## 南島先史文化特論Ⅱ

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

琉球列島に展開した先史・原史文化について講義を行う。とくに新石器時代（縄文時代、弥生～平安並行時代）と原史時代（グスク時代）の編年的な大綱は提示されているが、その系譜や編年観について幾つかの議論があることを取りあげ講義を行う。

### 【授業の展開計画】

修士論文の作成に必要な研究方法、また、他地域、他分野からの理解と知識を広げることを意識してもらう。

第1週 講義の趣旨、進め方などのガイダンス

第2週～第7週 新石器文化や原史文化の系譜とその地域的展開

第8週～第15週 問題の背景説明

受講者による発表と討議

### 【履修上の注意事項】

講義で示す論考、文献資料を各自で読み込むこと。

### 【評価方法】

レポートを提出し、授業における討議などを合わせて評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

講義時に提示する。

## 南島地理学特論 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人文地理学の基礎的な調査方法について学習し、実際の島嶼地域におけるフィールド実習を実施する中で、実践的な調査の企画・設計、調査結果の分析、集計を経験し、自ら調査できる技術習得を目指す。今年度の実習地域としては、次年度に引き続き、沖縄県国頭村を研究対象地域としてとりあげ、そこにおける人々の生業と社会組織、地域経済の振興についての地域調査を予定している。

## 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                                       |
|----|---|
| 1  | 人文地理学調査入門 地理学調査とは                               |
| 2  | 調査倫理と調査企画・設計(1)                                 |
| 3  | 調査企画・設計(2)、仮設構成                                 |
| 4  | 調査票の作成(1)                                       |
| 5  | 調査票の作成(2)                                       |
| 6  | 国頭村の地域調査(1) サンプリング、フィールドの選定の実際                  |
| 7  | 国頭村の地域調査(2) 実査(1)                               |
| 8  | 国頭村の地域調査(2) 実査(2)                               |
| 9  | 地域調査結果データの整理(1) (エディティング、コーディング)                |
| 10 | 地域調査結果データの整理(2) (データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成) |
| 11 | 地域調査結果データの整理(3) (量的分析とグラフ作成)                    |
| 12 | 地域調査結果データの整理と質的な分析                              |
| 13 | 報告書作成と地域調査報告会準備 (1)                             |
| 14 | 報告書作成と地域調査報告会準備 (2)                             |
| 15 | 地域調査報告会   |
| 16 | 全体のまとめ  |

## 【履修上の注意事項】

提出物を期限までに提出すること。

## 【評価方法】

提出物(論文・レポートなど)  
と出席状況で総合的に判断する。

## 【テキスト】

浮田典良『ジオ・パル21 地理学便利帳』海青社、2001年。後藤真太郎・谷 謙二他『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座—フリーソフトでここまで地図化できる—』古今書院 2007年。谷 謙二『フリーGISソフトMANDARAパーフェクトマスター』古今書院 2011年。

## 【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

## 南島地理学特論Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

南島地理学Ⅱでは、南島地理学Ⅰを基本として、地理情報システムのしくみとその操作方法について学習する。最終的には、各種分布図が独力で作業できるようになることを目標としている。使用ソフトは「MANDARA」、「カシミール」、「地図太郎」などです。

## 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                              |
|----|--|
| 1  | 地理情報システムとは①カシミール活用法                    |
| 2  | 地理情報システムとは②カシミール活用法                    |
| 3  | MANDARAの特色と地図データーさまざまな地図の紹介ー           |
| 4  | MANDARAで地図をつくろう①階級区分図をつくる              |
| 5  | MANDARAで地図をつくろう②階級区分を考える               |
| 6  | コンビニエンスストアの分布図ー競合店の多いコンビニを探すー          |
| 7  | 東京都の地価分布図の作成ー国土数値情報の地価公示データの利用ー        |
| 8  | 東京都八王子市の土地利用の変化ー国土数値情報の土地利用メッシュデータの利用ー |
| 9  | 水質調査マップの作成                             |
| 10 | ヒートアイランドに及ぼす環境パラメータの評価                 |
| 11 | 測地系と座標変換について                           |
| 12 | 緯度経度の取得方法、政府統計の活用窓口の利用                 |
| 13 | 白地図画像の地図データ化、地図太郎の利用①                  |
| 14 | 地図太郎の利用②                               |
| 15 | 地図太郎の利用③                               |
| 16 | まとめ                                    |

## 【履修上の注意事項】

パソコンによる積み上げ式学習なので、毎回出席することが重要。無料のGISソフト「MANDARA」、「カシミール」の各自パソコンへのインストールと「地図太郎（基礎的GISソフト）」を時々平行して使うので、購入してもらおう予定です（3000円）。授業は学内のパソコン室を利用する予定です。

## 【評価方法】

授業の出席率、課題の提出状況によって総合的に判断する。

## 【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

## 【参考文献】

MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS入門、谷謙二、古今書院  
 地図太郎、カシミールソフトの各操作マニュアル

## 南島文学特論 I A

担当教員 鈴木 耕太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球文学の特性を解明することをめざす。本学期では、琉球文学の中から劇文学である組踊を取り上げ、本土の文学や芸能との関わり合いや、沖縄の故事や歴史との関わり合いをpushえつつ、劇文学としての組踊について検討する。

## 【授業の展開計画】

第1～3講 一本講座のねらいと、資料の紹介、参考書の紹介などを行う。／組踊の歴史や研究史の概説を行う。  
第4講以降 組踊「執心鐘入」「二童敵討」のテキストに従って、影響を与えた文学や、近世琉球における士族の嗜んだ教養について講義し、組踊という劇文学の内容について検討を行う。  
第16講. テスト

## 【履修上の注意事項】

受講生は琉歌や『おもろさうし』などといった琉球文学について基礎的な知識が求められる。また、組踊の詞章は事前に目を通しておき、正しい発音で音読できることが望ましい。

## 【評価方法】

出席状況・講義の理解度・受講態度などの平常点と学期末のレポートで評価する。

## 【テキスト】

講義資料としてレジюмеや史資料のコピーを配布する。

## 【参考文献】

伊波普猷編 『校注 琉球戯曲集』（榕樹書林 1992）。球陽研究会編 『球陽』（角川書店 1972）。池宮正治 『沖縄芸能文学論』（光文堂企画出版部 1982）。

## 南島文学特論 I B

担当教員 一波照間 永吉

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

前期に引き続き、琉球文学の特性を考えるために「史歌」論を展開する。本学では、「史歌」と「物語歌謡」の関係について論じ、琉球歌謡の特質を把握する。

## 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                              |
|----|--|
| 1  | 「史歌」と歴史テ事件・人物についての概説を行う。参考資料等について説明する。 |
| 2  | 鬼虎の乱と歌謡について                            |
| 3  | 「鬼虎の娘のアヤグ」について①                        |
| 4  | 同上②                                    |
| 5  | 同上③                                    |
| 6  | 島分けと新村建てについて                           |
| 7  | 島分けと新村建てを謡う歌謡①                         |
| 8  | 同上②                                    |
| 9  | 同上③                                    |
| 10 | 島分けの伝説と歌謡                              |
| 11 | 「物語歌謡」を読む①                             |
| 12 | 同上②                                    |
| 13 | 同上③                                    |
| 14 | 「神謡」と「史歌」                              |
| 15 | 「祭祀歌謡」と「史歌」                            |
| 16 | 「史歌」論のまとめ                              |

## 【履修上の注意事項】

前期に同じ。

## 【評価方法】

前期に同じ

## 【テキスト】

前期に同じ

## 【参考文献】

前期に同じ

## 南島文学特論ⅡA

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球語圏の会話や民話などに出てくる単語を分析・整理し、琉球語の表現について考察してゆく。琉球語諸方言が日常的に使用されなくなり、それら言葉の記録と再活性化が急務となっている。この授業では、これまでに記録されたテキストを言語学的に分析して、琉球語に対する知識を深めるとともに、実際に会話や民話の語りなどを再現して、琉球語の再活性化に向けた糸口とする。また、会話や民話などに出てくる単語を索引化することも視野に入れる。

## 【授業の展開計画】

適当な会話集や民話集を選ぶ。各担当で方言テキストを文節ないしは単語に区切ってエクセルの表に入れ、単語表を作成する。活用語には活用形を入れる欄を設けるなど、表には工夫を施す。これらの作業は各担当が授業を受けるまでに準備しておく。実際の授業では、各担当ごとに発表を行い、語の区切り方が正しいか、文法的分析が正しいかなどをチェックする。各担当は、授業で検討した事項を復習し、単語表を修正する。以上の過程を繰り返し、方言テキストの索引を完成させる。文法解析、意味分析が一通り済み、全体の流れを把握した段階で、できれば会話や民話の語りなどを再現し、ビデオ撮影により記録する。記録したものには字幕を付ける。

## 【履修上の注意事項】

授業での発表者はレジュメを用意し、毎回の授業で検討できるようにしておくこと。

## 【評価方法】

- ①出席はもちろんのこと、発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行なう授業への積極的な関わり方を評価する。
- ②学期末に索引（データ）、方言による会話や語り（映像資料・字幕付）などを提出する。

## 【テキスト】

適宜指示する

## 【参考文献】

『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。そのほか、授業で適宜指示する。

## 南島文学特論ⅡB

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

民話を題材にした琉球方言によるデジタル紙芝居に取り組む。最近では、パソコンのレベルでも、簡単な映像を作ることが可能になっている。琉球方言による音声とデジタル紙芝居の画像に字幕を付け、作品に仕上げたDVD等に焼き付ける。各自が民話の中のキャストとなり、琉球方言で演じる。琉球語の世界に近づき、琉球語で表現する行為を考えてゆく。

## 【授業の展開計画】

- ①ある民話の共通語による台本を用意する。その民話が語られた地域の琉球方言に翻訳する（流暢な方言話者をお願いする）。翻訳された琉球方言の台本を分析し、ことばとして十分に理解する。
- ②方言台本の読み合わせを行う（発音練習）。方言台本の配役を決める。デジタル紙芝居の構成・割付を考える。
- ③スタジオで録音を行う。民話シーンの絵を描き、パソコンへ取り込む。
- ④パソコン上で、方言による録音と民話シーンの絵をマッチングさせる。
- ⑤作品完成。試写検討会を行なう。修正版を作成し、提出・配布する。

## 【履修上の注意事項】

前期「南島文学特論ⅡA」と同じ。

## 【評価方法】

前期「南島文学特論ⅡA」と同じ。完成した作品を提出する。

## 【テキスト】

適宜指示する

## 【参考文献】

適宜指示する

## 南島方言学特論 I

担当教員 野原 優一

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

琉球語について、音韻・語彙・語法・アクセントの面から概観する。琉球語といっても、北は奄美大島から南は与那国島までの各地域で話されることばには、それぞれ違いがあり、地域間では会話が成り立たないほど大きな差異がある。これらの琉球語は共通語に比して実に変化に富んだ様相を呈するが、その研究は大きく進展している。すぐれた諸先行文献に学び、琉球語の特徴を把握したい。琉球語は音韻体系がかなり多様である。前期は日本語と琉球語の対比、および琉球諸語の音韻・音声の特徴に重点を置く。

### 【授業の展開計画】

- 1、日本語の区分と琉球語（琉球方言）  
日本祖語、原琉球語の分岐、言語年代学、比較言語学、言語地理学
- 2、琉球語の音韻  
奄美方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言における音韻の特徴
- 3、琉球語の音声表記（IPA）と実践
- 4、課題発表

### 【履修上の注意事項】

音声・音韻表記を習得すること。

### 【評価方法】

レポート・発表・授業への関わり方などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜資料を提示する。

### 【参考文献】

- 『日本語音声学入門』 斎藤純男 三省堂 2009  
『琉球方言音韻の研究』 中本正智 法政大学出版局 1976  
『日本語教師のための言語学入門』 小泉 保 大修館書店 1996

## 南島方言学特論Ⅱ

担当教員 野原 優一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

琉球語について、音韻・語彙・語法・アクセントの面から概観する。琉球語といっても、北は奄美大島から南は与那国島までの各地域で話されることばには、それぞれ違いがあり、地域間では会話が成り立たないほど大きな差異がある。これらの琉球語は共通語に比して実に変化に富んだ様相を呈するが、その研究は大きく進展している。すぐれた諸先行文献に学び、琉球語の特徴を把握したい。後期は沖縄語を中心に用言、付属語、語彙について認識を深める。

### 【授業の展開計画】

- 1、沖縄語の動詞の成り立ちと活用（3回）
- 2、琉球語の形容詞（2回）
- 3、沖縄方言の助詞、助動詞、接尾辞（3回）
- 4、琉球諸語の語彙（5回）
- 5、方言調査（2回）
- 6、課題発表（1回）

### 【履修上の注意事項】

- ・方言への積極的なアプローチを心掛ける。
- ・フィールドワークに向けて表記力を高め、調査項目をしっかりと設定する。

### 【評価方法】

レポート・発表・授業への関わり方などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜資料を提示する。

### 【参考文献】

- 『琉球方言文法の研究』 内間直仁 笠間書院 1984  
『新編琉球方言助詞の研究』 野原三義 沖縄学研究所 1998  
『図説琉球語辞典』 中本正智 金鶏社 1981

## 南島民俗宗教特論 I

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義2

単位数 2

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 南島民俗宗教特論Ⅱ

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 南島民俗特論 I

担当教員 赤嶺 政信

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

沖縄は柳田国男や折口信夫以来の日本民俗学において、特異な位置を占めてきた地域である。それを踏まえ、日本民俗学の学史における沖縄の位置付けに関して再考しつつ、民間信仰、村落の祭祀組織、「家」や門中組織に関しての通時的視点に立脚した把握等、沖縄の民俗文化をめぐる諸課題について把握できるようにする。その際、近世における国家体制が、民俗事象に及ぼした影響について留意することの重要性についても、受講生の決意を喚起したい。

### 【授業の展開計画】

1～2週で、日本民俗学の学史における沖縄（南島）の位置づけについて討議し、受講生の関心に沿いつつ、受講生各自が取り上げて発表すべき研究論文を決定する。3週以降は、分担した課題について毎回1名が発表を行い、それを受けて、全員で討論を行なう。発表者は、事前に課題論文を読み込んだうえで、討論が深まるような工夫をしたレジュメを作成して、それを全員に配布する。

### 【履修上の注意事項】

発表者以外の受講生も、あらかじめ配布される論文テキストを丹念に読み込んで、授業に参加すること。

### 【評価方法】

出席状況および発表への取り組みとその内容に評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

授業のなかで、適宜紹介していく。

## 南島民俗特論Ⅱ

担当教員 赤嶺 政信

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

沖縄は、柳田国男や折口信夫以来の日本民俗学において、特異な位置を占めてきた地域である。それを踏まえ、日本民俗学の学史における沖縄の位置付けに関して再考しつつ、民間信仰、村落の祭祀組織、「家」や門中組織に関しての通時的視点に立脚した把握等、沖縄の民俗文化をめぐる諸課題について把握できるようにする。その際、近世における国家体制が、民俗事象に及ぼした影響について留意することの重要性についても、受講生の注意を喚起したい。

### 【授業の展開計画】

1～2週で、日本民俗学の学史における沖縄（南島）の位置づけについて講義し、受講生の関心に沿いつつ、受講生各自が取り上げて発表すべき研究論文を決定する。3週以降は、分担した課題について毎回1名が発表を行い、それを受けて、全員で討論を行なう。発表者は、事前に課題論文を読み込んだうえで、討論が深まるような工夫をしたレジュメを作成して、それを全員に配布する。

### 【履修上の注意事項】

発表者以外の受講生も、あらかじめ配付される論文テキストを丹念に読み込んで、授業に参加すること。

### 【評価方法】

出席状況および発表への取り組みとその内容によって評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

授業のなかで、適宜紹介する。

## 南島民俗文化特殊研究 I

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 南島民俗文化特殊研究Ⅱ

担当教員 稲福 みき子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

修士論文作成に向けた指導を中心とする。前年度書いた修士論文概要にそって、各自のテーマに関する先行文献のさらなる検討、調査内容および資料整理とその分析、提示、および論旨の展開等について検討し、指導を行う。

。

### 【授業の展開計画】

前期は、修士論文概要を踏まえて、それぞれの調査内容の更なる充実をめざす。資料の収集、分析、論点の絞り込み等を進め、中間発表を行う。

後期は、具体的な調査データに基づいて修士論文の構成を検討しつつ、資料提示、論旨の展開等、具体的に指導する。

### 【履修上の注意事項】

修士論文作成に向ける真摯な取り組みと姿勢が基本条件である。

### 【評価方法】

修士論文

### 【テキスト】

### 【参考文献】

適宜、紹介する。

## 南島歴史文化特殊研究 I

担当教員 田名 真之

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

院1年) 沖縄の前近代史、近代史を通観することを通して、琉球と日本、琉球と中国の関係について考え、そのことが琉球、沖縄に如何なる影響を与えたのか、また琉球の独自性とは何なのかを考えていく。その上で、各自の研究テーマに従って修士論文の内容や構成など大枠を考えるとともに、関連論文の講読、報告を行う。

## 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容        | 週  | 授 業 の 内 容        |
|----|------------------|----|------------------|
| 1  | 沖縄前近代史概観         | 17 | 夏季休暇中の収集資料について報告 |
| 2  | 同 上              | 18 | 同 上              |
| 3  | 同 上              | 19 | 今後の進め方について調整     |
| 4  | 沖縄近代史概観          | 20 | 修論テーマ、枠組等発表      |
| 5  | 同 上              | 21 | 修論テーマの点検         |
| 6  | 同 上              | 22 | 関連論文の講読          |
| 7  | 沖縄戦後史概観          | 23 | 同 上              |
| 8  | 同 上              | 24 | 同 上              |
| 9  | 研究史について(伊波普猷他)   | 25 | 同 上              |
| 10 | 同 上              | 26 | 同 上              |
| 11 | 同 上              | 27 | 同 上              |
| 12 | 研究テーマと修士論文について発表 | 28 | 同 上              |
| 13 | 先行研究・収集資料について報告  | 29 | 同 上              |
| 14 | 同 上              | 30 |                  |
| 15 | 夏季休暇中の資料集について調整  | 31 | 春期休暇中の計画等調整      |
| 16 | 同 上              |    |                  |

## 【履修上の注意事項】

修士論文の発表や研究発表に対し、積極的に発言すること。論文、史料の読み合わせについては、予習を欠かさないこと。

## 【評価方法】

出席はもとより、課されたレポート作成、発表、他の報告、発表に対する発言など、総合的に評価する。

## 【テキスト】

適宜資料を配付、また使用資料を指定するので各自でコピーするなり調達のこと。

## 【参考文献】

『沖縄県史 古琉球編』(沖縄県教育委員会 2010年)、『沖縄県史 近世編』(前 同 2005年)、  
『沖縄県史 近代編』(前 同 2011年)他

## 南島歴史文化特殊研究Ⅱ

担当教員 田名 真之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

修士論文作成に向け、定期的に進捗状況を発表させ、院生相互の質疑、応答を踏まえ、指導助言を行う。可能な限り早めに、論文執筆に取りかからせ、点検、修正のやりとり通じて、論文の完成を図る。

## 【授業の展開計画】

修論の進捗状況を院生交互に発表し、質疑応答を通じて、問題点の整理を行い、論文の修正、点検につなげる。院生は少なくとも月一での発表をノルマとして、修論の完成を目指させる。

| 週  | 授 業 の 内 容       | 週  | 授 業 の 内 容          |
|----|-----------------|----|--------------------|
| 1  | 修論完成までのスケジュール作成 | 17 | 夏期休暇中の修論進捗状況について報告 |
| 2  | 修論内容の調整、確認      | 18 | 夏期休暇中の修論進捗状況について報告 |
| 3  | 同 上             | 19 | 進捗状況の発表            |
| 4  | 進捗状況の発表         | 20 | 進捗状況の発表            |
| 5  | 進捗状況の発表         | 21 | 進捗状況の発表            |
| 6  | 進捗状況の発表         | 22 | 進捗状況の発表            |
| 7  | 進捗状況の発表         | 23 | 進捗状況の発表            |
| 8  | 進捗状況の発表         | 24 | 進捗状況の発表            |
| 9  | 進捗状況の発表         | 25 | 進捗状況の発表            |
| 10 | 進捗状況の発表         | 26 | 進捗状況の発表            |
| 11 | 進捗状況の発表         | 27 | 修論原稿の点検            |
| 12 | 中間発表の準備点検       | 28 | 修論原稿の点検            |
| 13 | 中間発表の準備点検       | 29 | 修論原稿の点検            |
| 14 | 中間発表の準備点検       | 30 | 修論原稿の点検            |
| 15 | 中間発表の準備点検       | 31 | 修論原稿の点検            |
| 16 | 夏期休暇中の計画の確認     |    |                    |

## 【履修上の注意事項】

修論完成に向けて、少なくとも月一の進捗状況の発表を確実にすること。他の発表について積極的にコメントし、互いの論文の質の向上に向け、切磋琢磨することを期待する。

## 【評価方法】

修論の完成と内容による。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

## 日本近現代文学特論 I A

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- (1) 文献探索の基礎を学ぶ。
- (2) 日本／沖縄の作家のテクストを読み、沖縄文学の現在とその可能性について考える。

### 【授業の展開計画】

- ・発表、討議。  
沖縄の近現代作家のテクストを取り上げる。

### 【履修上の注意事項】

毎時間、発表担当者を設ける。

### 【評価方法】

発表および文献探索法の基礎がどの程度身についているかによって評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

必要に応じて指示する。

## 日本近現代文学特論 I B

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本／沖縄の作家のテキストを読み、沖縄文学の可能性について考える。

### 【授業の展開計画】

- ・発表、討議。  
沖縄の近現代作家のテキストを取り上げる予定である。

### 【履修上の注意事項】

毎時間、発表担当者を設ける。

### 【評価方法】

発表および文献探索法の基礎がどの程度身についているかによって評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

必要に応じて指示する。

## 日本近現代文学特論ⅡA

担当教員 大野 隆之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

近代沖縄文学は戦前は言語的困難と貧困、戦後は米軍の占領下という他の地域が経験しなかった、特異な状況下で発展してきた。本講義では「文学不毛の地」といわれてきた沖縄に、芥川賞をもたらせた大城立裕を中心に、占領下沖縄の文学について、ポストコロニアル、オリエンタリズムなど、新たな視点を取り入れ考えていきたい。

ⅡAでは主に戦前の作品を取り上げる。

## 【授業の展開計画】

『沖縄文学選』に収録された作品を、編年体形式に読んでいく。  
一方的な講義ではなく、毎時間受講生の意見を取り上げ検討していく。

## 【履修上の注意事項】

受講者全員に毎回意見を述べさせるので、準備をしてくること。  
近代専攻の院生には、毎回A4一枚程度のショートレポートを提出させる。

## 【評価方法】

各時間の発表、期末のレポート

## 【テキスト】

## 【参考文献】

『沖縄文学選』 勉誠社、必携。  
大城立裕全集

## 日本近現代文学特論ⅡB

担当教員 大野 隆之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

近代沖縄文学は戦前は言語的困難と貧困、戦後は米軍の占領下という他の地域が経験しなかった、特異な状況下で発展してきた。本講義では「文学不毛の地」といわれてきた沖縄に、芥川賞をもたらせた大城立裕を中心に、占領下沖縄の文学について、ポストコロニアル、オリエンタリズムなど、新たな視点を取り入れ考えていきたい。

### 【授業の展開計画】

『沖縄文学選』に収録された作品を、編年体形式に読んでいく。  
一方的な講義ではなく、毎時間受講生の意見を取り上げ検討していく。

### 【履修上の注意事項】

受講者全員に毎回意見を述べさせるので、準備をしてくること。  
近代専攻の院生には、毎回A4一枚程度のショートレポートを提出させる。

### 【評価方法】

各時間の発表、期末のレポート

### 【テキスト】

### 【参考文献】

『沖縄文学選』 勉誠社、必携。  
大城立裕全集

## 日本語文化特殊研究 I

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

学術論文を作成するための基本を学ぶ。周辺の資料を探索し、発表し、テーマの決定を模索する。学年末の紀要論文への寄稿を目標とする。

## 【授業の展開計画】

- ① 1年を通しての研究計画の作成。
- ② 調査、文献・資料収集の方法
- ③ 参考文献、研究史の作成。
- ④ 方法、視点を検討し、小テーマを設定する。
- ⑤ 夏期合宿で中間発表会を行い、テーマの方向性を決定する。
- ⑥ 多方面からの調査・検討を繰り返し、発表。
- ⑥ 12月の紀要論文に向けテーマを設定し、執筆、手直し、推敲を重ねる。
- ⑦ 論文合評会の反省点を踏まえて検討し、修士論文のテーマと概要を作成する（2月末提出）。

## 【履修上の注意事項】

基本的に毎回発表を行い、進度を報告する。

## 【評価方法】

- ① 毎回個々に出した課題に取り組んでいるか。
- ② 中間発表、年度末の論文（ノート）

## 【テキスト】

## 【参考文献】

その都度指示する。

## 日本語文化特殊研究 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

学術論文を作成するための基礎を学ぶ。文献探索、調査等の基礎研究を通じてテーマおよび方法を確定し、修士論文までの具体的な研究計画を作成する。紀要への投稿を目標とし、修士論文の一部となる論文を執筆する。

## 【授業の展開計画】

- ①年間研究計画の作成（4月）
- ②調査、資料収集の方法
- ③先行文献目録、研究史の作成
- ④方法、視点の検討
- ⑤夏期合宿で研究成果の中間発表を行う
- ⑥紀要論文の執筆、投稿（12月下旬提出）
- ⑦修士論文の概要を作成する（2月末）

## 【履修上の注意事項】

各自の研究計画に沿って毎回発表を行い、進度を報告する。

## 【評価方法】

- ①研究計画に沿って着実に課題に取り組んでいるか。
- ②中間発表および紀要論文（研究ノート）等。

## 【テキスト】

適宜、指示する

## 【参考文献】

適宜、指示する

## 日本語文化特殊研究Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

各自が設定したテーマに沿って、引き続き、調査、研究を行う。年間計画を立て、構想表を作成し、執筆、発表、検討を重ね、学位論文を完成する。

### 【授業の展開計画】

- ① 年間研究計画の作成。
- ② 学位論文の構想表の作成と検討。
- ③ 補足調査を行いながら、7月末の修士論文中間発表会に向けてのテーマを設定し、執筆する。
- ④ 添付資料のあげ方、注記のつけ方、参考文献の選定に注意しながら、発表レジュメを完成する。
- ⑤ 中間発表の反省点を踏まえ、夏休み明けまでに、学术论文の大まかな下書きをする。
- ⑥ 下書きを元に、論文構成の補足、修正を行う。
- ⑦ 1章ごとの検討を行いながら、12月の最終講義時までに修士論文を完了する。
- ⑧ 全体を通してミスがないよう点検、完成する。
- ⑨ 2月中旬の修士論文最終試験、論文発表会に向けての準備を行う。

### 【履修上の注意事項】

基本的に毎回執筆し、発表を行い、進捗を報告する。

### 【評価方法】

- ① 毎回個々に出した課題に取り組んでいるか。
- ② 学位論文。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

その都度指示する。

## 日本語文化特殊研究Ⅱ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

修士論文を完成させる。

### 【授業の展開計画】

- ①年間研究計画の作成
- ②前年度末に提出した論文概要をふまえ、詳細な構想表を作成する
- ③7月末の中間発表会に向けて研究成果をまとめる
- ④中間発表での指摘、反省点をふまえ、構成、内容、方法等を総合的に再検討する
- ⑤夏期合宿において研究成果を発表する
- ⑥12月の講義終了時までには修士論文の下書きを提出する
- ⑦全体を通して総点検を行い、論文を手直しする（1月下旬提出）
- ⑧最終試験、発表会に向けて準備を行う

### 【履修上の注意事項】

各自の研究計画に沿って毎回発表を行い、進度を報告する

### 【評価方法】

- ①中間発表
- ②研究成果

### 【テキスト】

適宜、指示する

### 【参考文献】

適宜、指示する

## 日本古典文学特論 I A

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、万葉集歌を扱う。今から1300年ほど前を生きた万葉びとが詠んだ歌を、時代背景・作歌状況・作者の個性・習俗・ことば等々を踏まえながら、一首一首深く読み解く。

## 【授業の展開計画】

- 第1回 『万葉集』とは何か（概説）
  - 第2回 雄略天皇の歌
  - 第3回 額田王の歌
  - 第4回 有間皇子の歌
  - 第5回 大津皇子・大伯皇女の歌
  - 第6回 柿本人麻呂の歌（1）
  - 第7回 柿本人麻呂の歌（2）
  - 第8回 高市黒人・長意吉麻呂の歌
  - 第9回 山部赤人の歌
  - 第10回 山上憶良の歌
  - 第11回 大伴旅人の歌
  - 第12回 高橋虫麻呂の歌
  - 第13回 大伴家持の歌（1）
  - 第14回 大伴家持の歌（2）
  - 第15回 東歌・防人歌
- 定期試験

## 【履修上の注意事項】

後期開講する日本古典文学特論 II Bも継続して履修すること。

## 【評価方法】

出席点＋テスト点＋レポート点＝評価点

## 【テキスト】

『万葉集必携』 稲岡耕二編、學燈社。  
『万葉集必携 II』 稲岡耕二編、學燈社。

## 【参考文献】

適宜指示する。

## 日本古典文学特論 I B

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、万葉集歌を扱う。今から1300年ほど前を生きた万葉びとが詠んだ歌を、時代背景・作歌状況・作者の個性・習俗・ことば等々を踏まえながら、一首一首深く読み解く読解トレーニングを行う。特に柿本人麻呂の歌を扱う。

## 【授業の展開計画】

- 第1回 『万葉集』と柿本人麻呂（概説）
- 第2回 人麻呂作歌(1)
- 第3回 人麻呂作歌(2)
- 第4回 人麻呂作歌(3)
- 第5回 人麻呂作歌(4)
- 第6回 人麻呂作歌(5)
- 第7回 人麻呂作歌(6)
- 第8回 人麻呂作歌(7)
- 第9回 人麻呂歌集歌(1)
- 第10回 人麻呂歌集歌(2)
- 第11回 人麻呂歌集歌(3)
- 第12回 人麻呂歌集歌(4)
- 第13回 人麻呂歌集歌(5)
- 第14回 人麻呂歌集歌(6)
- 第15回 人麻呂歌集歌(7)

## 【履修上の注意事項】

古辞書（類聚名義抄、色葉字類抄）及び大漢和辞典、日本国語大辞典、時代別国語大辞典上代編等を用いて、事前に漢字や語句などを調べてきた上で講義に臨むこと。

## 【評価方法】

出席点＋レポート点＝評価点

## 【テキスト】

『万葉集』本文篇（塙書房）

## 【参考文献】

伊藤博『万葉集釋注』（集英社）、澤瀉久孝『万葉集注釋』（中央公論社）

## 日本古典文学特論ⅡA

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。

### 【授業の展開計画】

- ①日本文学における中世と近世
- ②説話の注釈 一～五
- ③歌謡の注釈 一～五
- ④南島文学との比較 一～五

### 【履修上の注意事項】

「ⅡA」は前期に開講し、「ⅡB」は後期に開講するが、どちらから受講してもかまわない。

### 【評価方法】

レポートによって成績を評価する。

### 【テキスト】

適宜、指示する

### 【参考文献】

適宜、指示する

## 日本古典文学特論ⅡB

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。

### 【授業の展開計画】

- ①日本文学史における中世と近世
- ②説話の注釈 一～五
- ③歌謡の注釈 一～五
- ④南島文学との比較 一～五

### 【履修上の注意事項】

「ⅡA」は前期に開講し、「ⅡB」は後期に開講するが、どちらから受講してもかまわない。

### 【評価方法】

レポートによって成績を評価する。

### 【テキスト】

適宜、指示する。

### 【参考文献】

適宜、指示する。

## 比較社会文化特論 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 比較社会文化特論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本科目は、主としてドキュメント分析、会話分析、インタビュー、聞き取り調査、参与観察など質的調査の方法に依拠したフィールドワークを行うためのトレーニングを目的とする。とくに、新聞・雑誌記事、資料文書などのデータの分析法（内容分析等）を習得するとともに、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析などに関する基本的理解を踏まえながら、実践的な能力を習得する科目である。

## 【授業の展開計画】

| 週  | 授 業 の 内 容                                      |
|----|--|
| 1  | ガイダンス：参考資料等の配布                                 |
| 2  | 問題発見と問題構成（質的調査とその分析の意義・目的—仮説検証と仮説発見・構成の相違）     |
| 3  | 質的データ分析の一般理論的基礎①：ミルズ「類型的語彙」論                   |
| 4  | 質的データ分析の一般理論的基礎②：ガーフィンケル「エスノメソドロジー」            |
| 5  | 質的データ分析の一般理論的基礎③：ゴフマン「行為の演技論」                  |
| 6  | 質的データ分析の一般理論的基礎④：現象学的社会学における「間・主観性」と調査の主・客問題   |
| 7  | 質的データ分析の実践①：内容分析（新聞・雑誌記事、資料文書等）                |
| 8  | 質的データ分析の実践②：ドキュメント分析（記録日誌、日記、手紙等の分析）           |
| 9  | 質的データ分析の実践③：聞き取り調査によるデータ収集の問題（インタビュー空間の設定と臨床性） |
| 10 | 質的データ分析の実践④：ライフヒストリー分析（日常的経験世界と「語られる」経験世界の境界）  |
| 11 | 質的データ分析の実践⑤：様々な観察法I（参与観察と非参与観察の境界）             |
| 12 | 質的データ分析の実践⑥：様々な観察法II（組織的観察法と非組織的観察法など）         |
| 13 | 学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議①                      |
| 14 | 学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議②                      |
| 15 | まとめとふりかえり                                      |
| 16 | 補習   |

## 【履修上の注意事項】

できるだけ前期の特論Ⅰから連続して受講することが望ましい。また、議論が抽象的になり過ぎないように、各々の研究テーマを意識しながら関わっていくように。教員が指定した文献以外にも受講生で提案したいものがあれば、カルチュラル・スタディの視点から大きく逸脱しない程度にかぎり活用していきたい。

## 【評価方法】

出席状況と発表報告のプレゼンテーション技能、問題の捉え方、議論への参加の積極性などを鑑み、総合的に評価する。

## 【テキスト】

佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』、新曜社、2008年。谷富夫編『ライフヒストリーを学ぶ人のために』、世界思想社、1996年。

## 【参考文献】

適宜紹介する。

## 東アジア文化人類学特論 I A

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

この授業の主眼は、東アジアの諸社会・文化に関する基礎的な理解を深めることにある。

### 【授業の展開計画】

上記の目標を達成するため、今年度前期は中国とくに「漢民族」（漢族）の親族・社会組織に関する主要著作・論文を複数取り上げて輪読する。

授業としては、前半の数回において「東アジア」および「文化人類学」（社会人類学、民族学）に関する基礎的知識を講義し、それ以降は担当を決め、各ゼミ生の発表ならびに質疑応答を通じて内容の理解を深める。取り上げる著作・論文は授業の際に改めて提示する。

### 【履修上の注意事項】

積極的な授業参加を求める。

### 【評価方法】

授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末に提出してもらうレポート（テーマは学生が主体的に選択。各自の修士論文に関わるもので構わない）の内容を踏まえ、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業の際に紹介する。

### 【参考文献】

瀬川昌久2004『中国社会の人類学——親族・家族からの展望』世界思想社  
瀬川昌久・西澤治彦（編訳）2006『中国文化人類学リーディングス』風響社

## 東アジア文化人類学特論 I B

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

この授業の主眼は、東アジアの諸社会・文化に関する基礎的理解を深めることにある。

### 【授業の展開計画】

上記の目標を達成するため、今年度後期は中国とくに「漢民族」（漢族）の宗教・祖先祭祀に関する主要著作・論文を複数取り上げて輪読する。授業としては、前期に行った「東アジア文化人類学特論 I A」の内容を踏まえ、担当を決めて各ゼミ生が担当著作・論文の内容を発表し、質疑応答を通じて理解を深める。取り上げる著作・論文は授業の際に改めて提示する。

### 【履修上の注意事項】

積極的な授業参加を求める。

### 【評価方法】

授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末に提出してもらったレポート（テーマは学生が主体的に選択。各自の修士論文に関わるもので構わない）の内容を踏まえ、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業の際に紹介する。

### 【参考文献】

五十嵐真子2006『現代台湾宗教の諸相——台湾漢族に関する文化人類学的研究』人文書院  
川口幸大・瀬川昌久（編）2013『現代中国の宗教——信仰と社会をめぐる民族誌』昭和堂  
渡邊欣雄1991『漢民族の宗教——社会人類学的研究』第一書房

## 東アジア文化人類学特論Ⅱ

担当教員 津波 高志

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

沖縄側から奄美諸島の文化をいかに理解すべきかという点を中心に講義を行う。特に、現在の文化の研究であっても、その背後にある時間的な深みに配慮することが如何に大切であるかについて学生に意識させたい。

### 【授業の展開計画】

3時間ほど、総論的に講義する。その後は、近現代・近世・古琉球という具合に、琉球史の時代区分に沿いながら、各論を展開する。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

レポートで評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

講義中に文献を挙げる。

## 東アジア文化人類学特論Ⅲ

担当教員 津波 高志

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

沖縄側から奄美諸島の文化をいかに理解すべきかという点を中心に講義を行う。特に、現在の文化の研究であっても、その背後にある時間的な深みに配慮することが如何に大切であるかについて学生に意識させたい。

### 【授業の展開計画】

近現代・近世・古琉球という具合に、琉球史の時代区分に沿いながら、各論を展開する。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

レポートで評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

講義中に文献を挙げる。

## 文化財保存特論

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

人類の歴史のなかで営為により残された遺産の中でもとくに物質的な文化財を中心に、その特質や変遷などについて学び、現代社会において、どのように保護し、活かしていくのか考える。とくに現在の文化財行政で実践されている埋蔵文化財や史跡、名勝、記念物、建造物などの調査・研究、保存技術などの成果を学び、復元整備と観光等における活用の実情や課題などを具体的に紹介し考察する。

### 【授業の展開計画】

基本的には講義型式をとる。  
内容は文化財保護法、文化財の指定、保存と整備、活用のあり方についてとりあげる。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

授業参加の度合い、レポートの提出で評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

特に指定しない。講義の中で、随時紹介する。

## 民族誌特論

担当教員 全 京秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

東アジア人類学史——1860年代～1960年代

歴史学者のE・H・カーが言うように、私たちは自身の歴史を現代の文脈において見つけ出さなければならない。

そこで、人類学を歴史的に考える「歴史人類学」が要請される。

これまで東アジアは西洋の力によって描かれてきた。中国・日本・韓国には独自の人類学があるが、いま一度その相互関係を比較・検討しなければならない。この作業は、同地域における西洋の力による支配を明るみにするだろう。ひとつの学問分野としての人類学の紹介を通じ、東アジアの全体性はより明らかになるだろう。

## 【授業の展開計画】

1回：東アジアの人類学史——なぜ、いかにして？

2回：前史——近代化（中国の「中体西用」論、日本の脱亜入欧）そして「人類」・「人類学」

3回：東京帝国大学人類学研究室と坪井正五郎——「日本人論」の科学化

4回：黎明期の「民俗学」——南方熊楠、金田一京助、伊波普猷、小倉進平

5回：フィリピン——Otley Beyer と米国植民地

6回：人類学におけるフランスおよび米国の影響

7回：澁澤敬三とアチック・ミュージアム——総合調査と博物館

8回：台北帝国大学——移川、宮本、馬淵

9回：『民族学研究』、日本民族学会vs東京人類学会

10回：柳田国男

11回：満州民族学会、国立中央博物館、大陸科学院（ハルピン分館）

12回：中国

13回：民族研究所

14回：皇道民俗学（折口）vs抵抗民俗学（金関）

15回：戦争と軍属人類学——鹿野忠雄、Otley Beyer、泉靖一

16回：敗戦と占領政策

## 【履修上の注意事項】

特になし（講義は基本的に日本語で行う。必要があれば韓国語・英語・中国語も併用）

## 【評価方法】

レポートを課す予定である。（詳細は講義中に説明する）

## 【テキスト】

特になし（適宜資料を配布）

## 【参考文献】

J. Stoking『After Tylor』、A. クーパー『人類学の歴史』、A. Hallowellの諸論文、寺田和夫『日本の人類学』、綾部恒雄（編）『日本文化人類学群像』、王建民『中国民族学史』、全京秀『韓国人類学百年』、坂野徹『帝国日本と人類学者』、山路勝彦（編）『日本の人類学』